



モニタリングサイト1000

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター



2014年 冬期概要

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2014年冬期の結果概要

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の2014年度冬期概要をお知らせします。

冬期の個体数は2010年以来最小に

2014年度冬期調査は、2014年12月1日から2015年2月28日までの期間実施されました。114ヶ所の調査サイトで調査が実施され、こ



写真1. ヘラサギ

のうち一斉調査(1月18日を基準日とした前後1週間の調査)への参加は98ヶ所でした。一斉調査期間では、シギ・チドリ類 33種 28,720羽、ツクシガモ3,180羽、ヘラサギ34羽、クロツラヘラサギ 256羽、ズグロカモメ2,454羽が記録され、秋期の全サイトの最大個体数(調査期間内に記録された各種個体数の最大値)の合計では、シギ・チドリ類 42種 49,167羽、ツクシガ

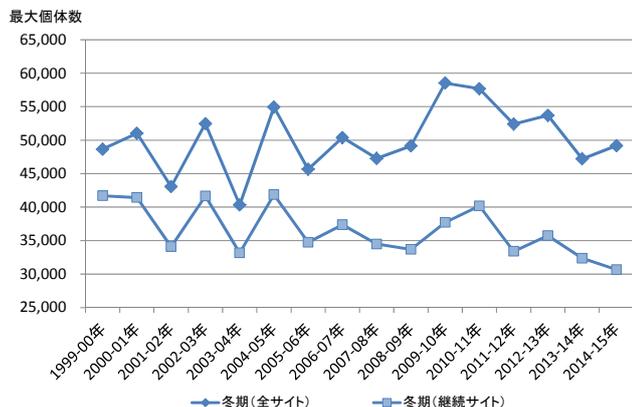


図1. 冬期調査における全サイトと継続調査しているサイトの最大個体数合計の推移 (2000年から2014年の継続サイトN=44)

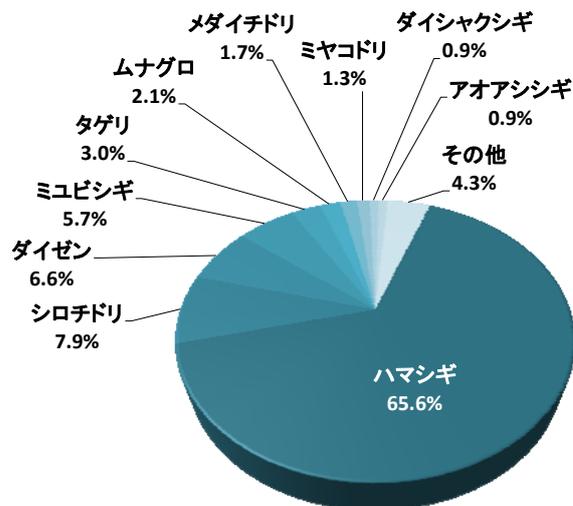


図2. 2014年冬期調査の優占種

モ6,090羽、ヘラサギ59羽、クロツラヘラサギ400羽、ズグロカモメ3,324羽が記録されました。

1999年からの「全サイトの最大個体数の合計」と「連続して調査が継続されているサイトの最大個体数の合計」を、グラフに示しました(図1)。全サイトの最大個体数の合計は、前年度秋期と比べ約2000羽増加(+4.2%)し、逆に継続サイトでは、前年度冬期と比べ約1700羽減少(-5.3%)して、3,0667羽と継続サイトの合計では2000年以降で最小値となりました。越冬地の分散などが考えられます。

最大個体数における優占種の上位5種は、ハマシギ(65.6%)、シロチドリ(7.9%)、ダイゼン(6.6%)、ミュビシギ(5.7%)、タゲリ(3.0%)で、上位種に変動はありませんでした(図2)。特定の4種(ツクシガモ、クロツラヘラサギ、ヘラサギ、ズグロカモメ)では、特筆すべき事として、ヘラサギが、一斉調査期間に九州地域を中心に14サイトで合計34個体確認されました。これは2004年のモニタリングサイト1000調査開始以降、最も多い記録でした。

表1. 2014年度までの冬期個体数(個体数の最大値の合計)の経年変化。増減の目立つ種と、主な確認地域の個体数を示す。

種名/地域	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09	2009/10	2010/11	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15
減少傾向											
シロチドリ(総数)	8493	5293	4459	4316	4582	4812	4385	4073	4199	4111	3906
関東の個体数	648	494	490	554	518	406	466	296	224	272	287
伊勢湾の個体数	985	571	420	359	440	325	273	352	343	324	404
九州の個体数	5599	2991	2486	2480	2095	2644	1953	2103	2231	2197	2029
オオメダイチドリ(総数)	273	45	365	377	360	373	299	172	70	53	56
与那覇湾の個体数	265	40	360	359	344	359	280	150	40	30	30
増加傾向											
コチドリ(総数)	28	23	60	67	123	74	81	94	108	108	109
九州の個体数	7	1	15		8	10	19	31	8	12	2
沖縄の個体数	5	11	23	38	49	21	39	50	91	83	88
ミヤコドリ(総数)	155	183	201	247	356	586	511	410	608	520	627
関東の個体数	113	110	141	181	282	487	341	355	408	334	495
伊勢湾の個体数	30	66	54	58	67	85	152	42	171	166	99

2014年度までの全サイトの冬期総個体数の経年変化で、増減が目立った種を表1に示します。シロチドリ、オオメダイチドリは減少、コチドリ、ミヤコドリは増加を示しています。その他、クロツラヘラサギ、ヘラサギ、ツクシガモ、ズグロカモメの4種とも九州を中心に増加傾向にあり、ズグロカモメ以外の3種は過去最大数を記録しました。これらの種の増加は、単に個体数増加を示しているわけではなく、分布の変化や大陸での生息環境悪化等の可能性も考えられます。

た。日本で繁殖する種なので、繁殖地の保全や、繁殖期の保全対策が必要ではないかと思えます。

コチドリは沖縄、ミヤコドリは伊勢湾で増加

コチドリは近年100羽程度が越冬していますが、主な越冬地は沖縄地域です。泡瀬干潟や漫湖等で緩やかな増加傾向が見られますが、越冬数の多い羽地内海が2012年度から調査サイトに加わったことも増加の要因になっています(図4)。

ミヤコドリは過去最大数を記録しました。伊勢湾の雲出川河口や安濃川河口で増加傾向にありますが、越冬数の多い香良洲海岸が2010年度から調査サイトに加わったことも増加の要因となっています(図5)。

オオメダイチドリは与那覇湾で激減

オオメダイチドリはほとんどが宮古島の与那覇湾で記録されているため、全国的に減少しているというよりは、与那覇湾での減少が総数に影響していました(図3)。与那覇湾の生息環境の悪化、またはアジアを通過するオオメダイチドリ個体群の減少が懸念されます。



写真2. オオメダイチドリ
写真: 三木敏史

シロチドリは過去最小数を記録し、全国的に減少傾向です。特に関東、伊勢湾、九州での減少が目立ちます。谷津干潟については今季0個体の記録でし

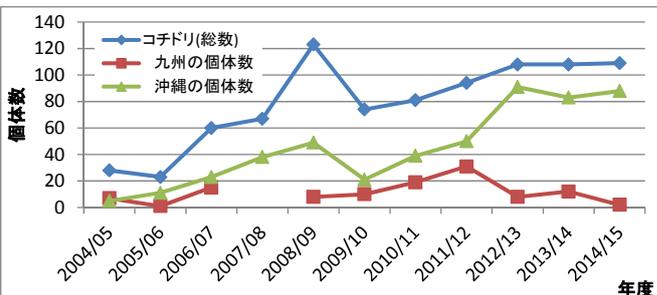


図4. コチドリの総数と九州、沖縄での個体数の推移

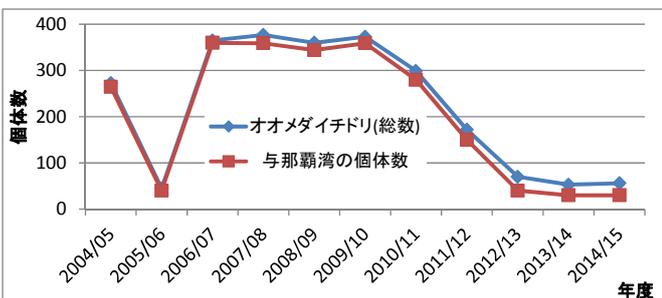


図3. オオメダイチドリの総数と与那覇湾での個体数の推移

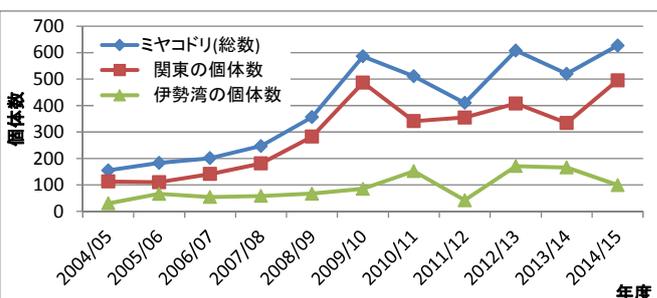


図5. ミヤコドリの総数と関東、伊勢湾での個体数の推移

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:ミヤコドリ(三木敏史)
2014年 冬期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター <http://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ <http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史・奴賀俊光 電話/Fax: 042-401-8661 メール: shigichi@bird-research.jp